

月刊 やちまなこ

2012.11.15 発行

No. 180

11 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



水辺ではオオハクチョウがのんびりと羽を休めている。残暑が続き、今年の紅葉はだめだろうと思っていたが、冬を目前にして帳尻を合わすように一気に色づき長雨で散ってしまった。

ヨシ原は風が吹くたび音を立て、うねりながら揺れている。雲間に見える山の峰は白く輝き、湿原も冬の装いとなる日も近いようだ。



コッタロ川と湿原のほとりから

149 11月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

音の翼にのせて暖かかった晩秋が別れを告げようとしている昨今です。

一進一退を繰り返しつつじんわり訪れた、いきの長い錦秋に彩られて穏やかな心と憂愁に満ちたコッタロは、立冬を過ぎて9月下旬頃の気温で例年とは全く比較になりません。ビニールハウス内は勿論、畑の野菜類が殊の外元気なので大変有難く頂いております。又、草の大地もごらんの通り青々とみずみずしく、樹林の黄葉との鮮やかなコントラストを眺めるにつけ、道端に咲くタンポポやノコギリ草の花を愛でるにつけこの異常とも思える気候に悲喜こもごも。とは云え、生きもの達の繰り広げる日替わりドラマの数々は奇抜で面白く、彼等から目が離せません。

普段閑静な山里の我家に昼夜を問わず訪れる獣(鹿、狐、狸、犬、猫、ミンク)の中でも日頃何気なく平和共存しているかに見えるエゾ鹿さえ、『湿原の神 丹頂』の虫の居どころがよろしくないとい喝され、金切声にひるんでおっかなびっくり！そのしなやかな肢体をくねらせ乍ら退散を余儀なくされるのです。一方で、このところ連日現れて我家のアイドル的存在となっているエゾ狸のター坊は、夜なよな畑に穴を掘り、昼間は庭先の水辺を一人占め。そこへ丹頂一家が舞降りたらさあ大変。このおっとり狸は早くもふっさふさの冬毛を着込んだ大人しい個体で攻撃心はなく、ツルに吠えられればひたすら“ごめんなさい”と頭を低くしてウロウロウロウロするばかり。仕舞にター坊目がけて振りおろされるツルハシから彼を守らんが為に人が介入せざるを得ず、事無きを得たのでした。どうぞ御安心の程を！！

さても落ち葉時雨に浄められてすっかり裸木となった山々は見透しがよくなりました。カケスとヒヨドリも山からおりてきて、常連達と共にバードテーブルを賑わしております。野鳥の楽園も日増しに楽しくなることでしょう。“大雪の気配濃厚冬隣り”



ウミウがシラルト口湖や塘路湖にもやってきて羽を休めていることがあります。長良川の鵜飼いで使われる種だけあって、魚をとるのはお手のもの！ 先日、塘路湖にいた2羽は30秒程の潜水を繰り返して、魚をとっていました。彼らが潜水採餌していると、“魚を横取り”なんて考えは無いのでしょうか、ユリカモメが何度も横を飛んでいました。ウの仲間のカワウと似ているので判別に悩み「ウ類がいたけど…」という目撃情報が寄せられることもあります。近距離での観察が可能なら、嘴基部・口角付近の黄色い部分が三角形に尖っているか注目してください。海にいると思いがちですが、湿原周辺の湖にも食事処を探して遠征に来ているのかもしれないね。



ムックリ作りを体験

10日に自然ふれあい行事「ムックリを作ろう」を開催しました。ムックリはアイヌの人たちが使っていた竹製の口琴でその音色は神秘的で独特な音色を奏でます。

工房サルンパ代表の諏訪良光さんを講師に約2ミリ厚の竹材に平刃を使い、紐で引っ張り振動させる部分を薄く削る作業では各自苦戦していましたが、講師の手ほどきを受けながら完成することができました。

なかなか音が出ない参加者に「練習を繰り返すと必ず音は出る」とアドバイスがありました。



講師の奏でる音色に挑戦する参加者

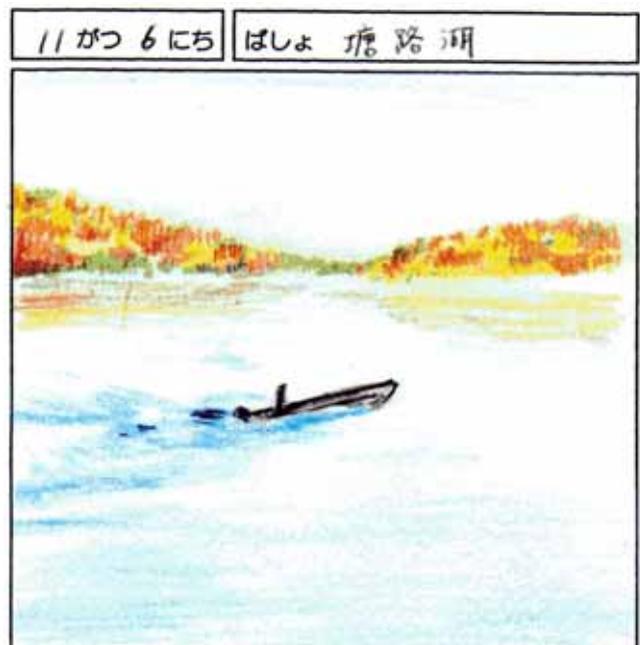
つぼっちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.65 「晩秋の塘路風物詩～ワカサギ漁～」

9月下旬頃から始まる、塘路湖のワカサギ漁は、冷え込みが厳しくなる11月頃に最盛期を迎えます。早朝塘路湖をワカサギ漁の舟が、網の場所へと向かっていくのを見ることが出来ます。

塘路湖のワカサギ漁は古くから知られており、塘路湖畔のアイヌの人々による漁業にまで遡る事が出来ます。明治44年の『釧路新聞』に掲載された「塘路湖の漁業」という記事では、塘路湖のワカサギについて生態を紹介しています。要約すると、ワカサギは湖内にいるが、初秋までは湖全体に散らばり漁にならない。仲秋になるとワカサギが湖岸に集まりはじめ、日当たりの良い湾に群生するとあります。

現在でも、湖水温が高いとワカサギが網に入らない為、秋から湖が結氷し始める12月上旬頃までの短期間で漁を行います。ちなみにこの時期、捕れたてのワカサギを佃煮にするので、大変おいしくお勧めです。

坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）



12月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

リースを作ろう

[日時] 12/8 (土) 13:00~15:00

[定員・参加料] 10名、500円

[場所] 塘路湖EMCレクチャールーム

[持ち物] エプロン、枝切りばさみ、飾り付けしたいものがあればご持参ください。

問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

リースを作ろう

[日時] 12/9 (日) 13:00~15:00

申し込み 問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルト湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(10/19)ガマの穂 (10/22)ヤマブドウの実、ミズナラの黄葉 (10/31)ツリバナの実、サワシバの実 (11/2)イタヤカエデの紅葉、ハルニレ黄葉 (11/5)フキノトウ、エゾウコギの実 (11/13)セイヨウタンポポ、セイヨウノコギリソウ

【鳥】(10/16)ヤマゲラ (10/19)オオハクチョウ、アオサギ、マガモ、ヒシクイ (10/20)ユリカモメ (10/24)タンチョウ、セグロセキレイ (10/26)オオタカ (11/2)ヒガラ、ヤマセミ (11/3)ヒヨドリ、ウソ、オオバン、ホオジロガモ、ハクセキレイ (11/6)ウミウ、アカエリカイツブリ、ベニマシコ (11/9)カワアイサの群れ (11/13)シマエナガとハシブトガラの混群

【その他】(10/16)クジャクチョウ、アキアカネ、ユキムシ (10/19)キトンボ、エゾシマリス (10/21)エゾタヌキ (10/22)標茶今季最低気温-4.2 を記録 (10/26)エゾシカの雄叫び(10/29)エゾタヌキの死骸、エルタテハ (11/3)雌阿寒岳初冠雪 (11/12)エゾシカとキタキツネの死骸

朝夕、エゾシカが道路を横断することが多くなってきました。車で観光をされる方は、スピードダウンでエゾシカの急な飛び出しにご注意ください。

コッタロ湿原展望台のWCは凍結防止のため来年4月30日まで閉鎖しています。

日出・日入時間 11/15(6:15, 15:59) . 11/30(6:33, 15:49) . 12/14(6:46, 15:48)



2012年の紅葉(標茶町郷土館付近 11/2)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00~16:00(4月~10月は17:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料